

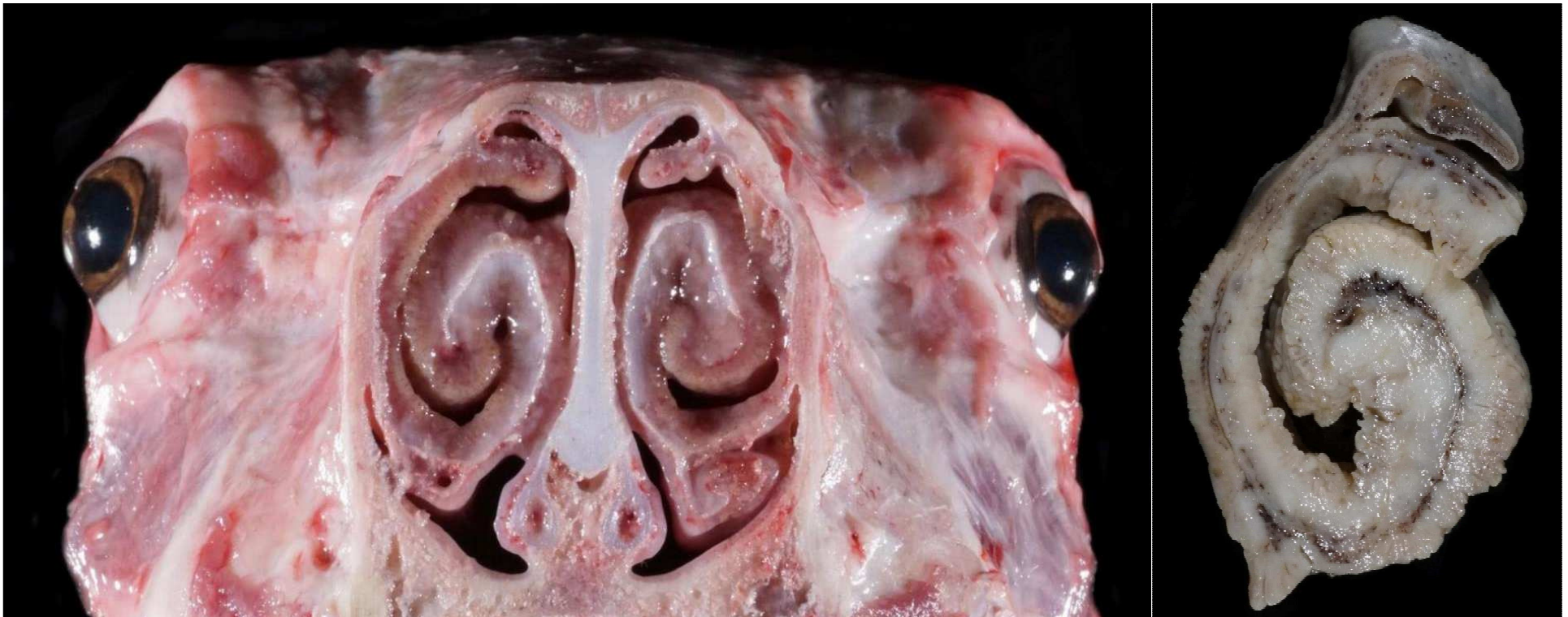
2019-4-3 羊 鼻粘膜

提出機関：ミネソタ大学、獣医学部、

Veterinary Diagnostic Laboratory, USA.

症例：羊（血統不明）*Ovis aries*、3才

病歴：持続的な鼻汁排泄及び呼吸困難。安楽殺を実施

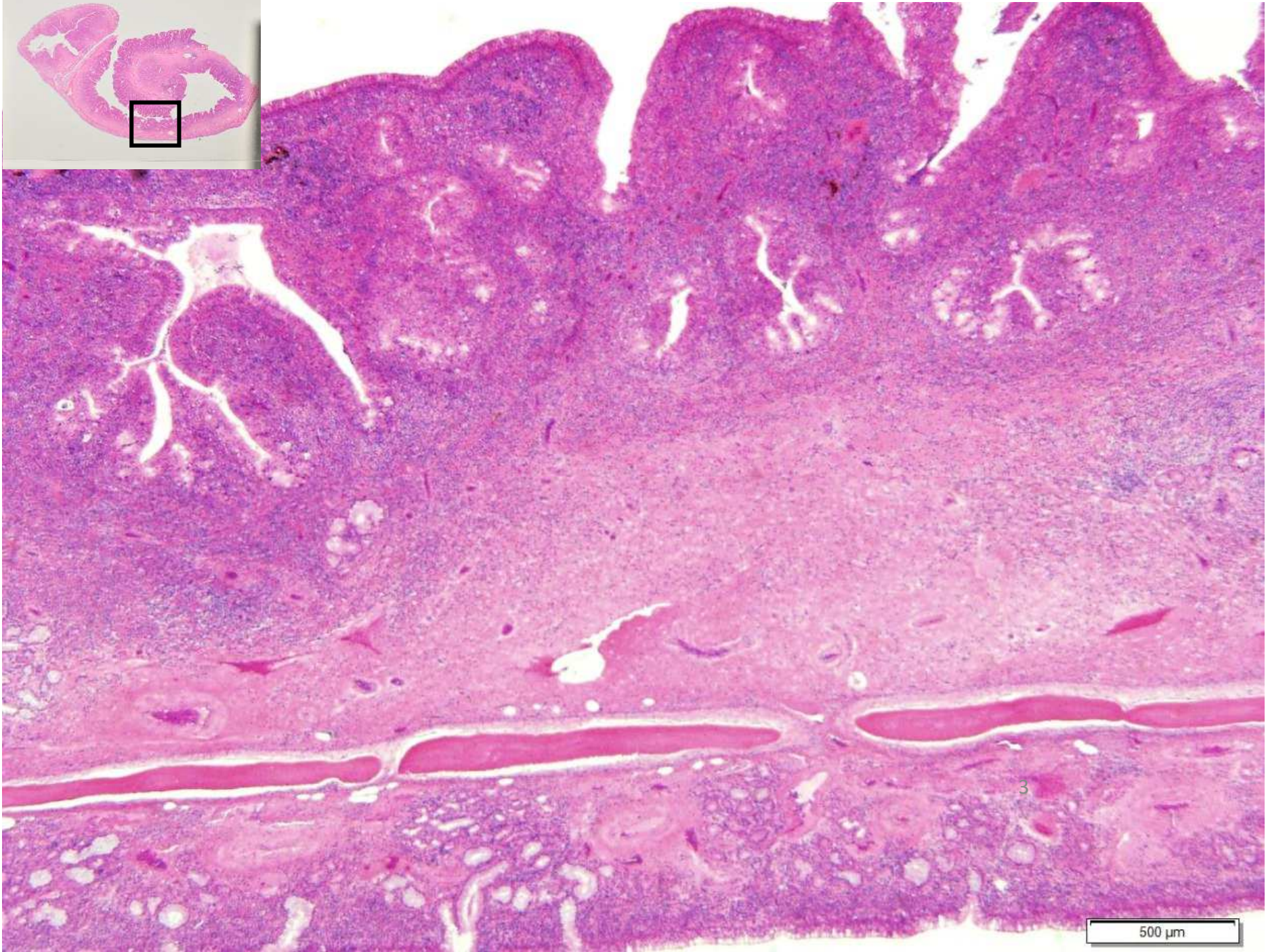


[肉眼所見]

- 鼻孔内に中程度の粘液貯留
- 冠状断では鼻甲介(*conchae*)が著しく肥厚し、表面は粗、管腔は狭窄を示した

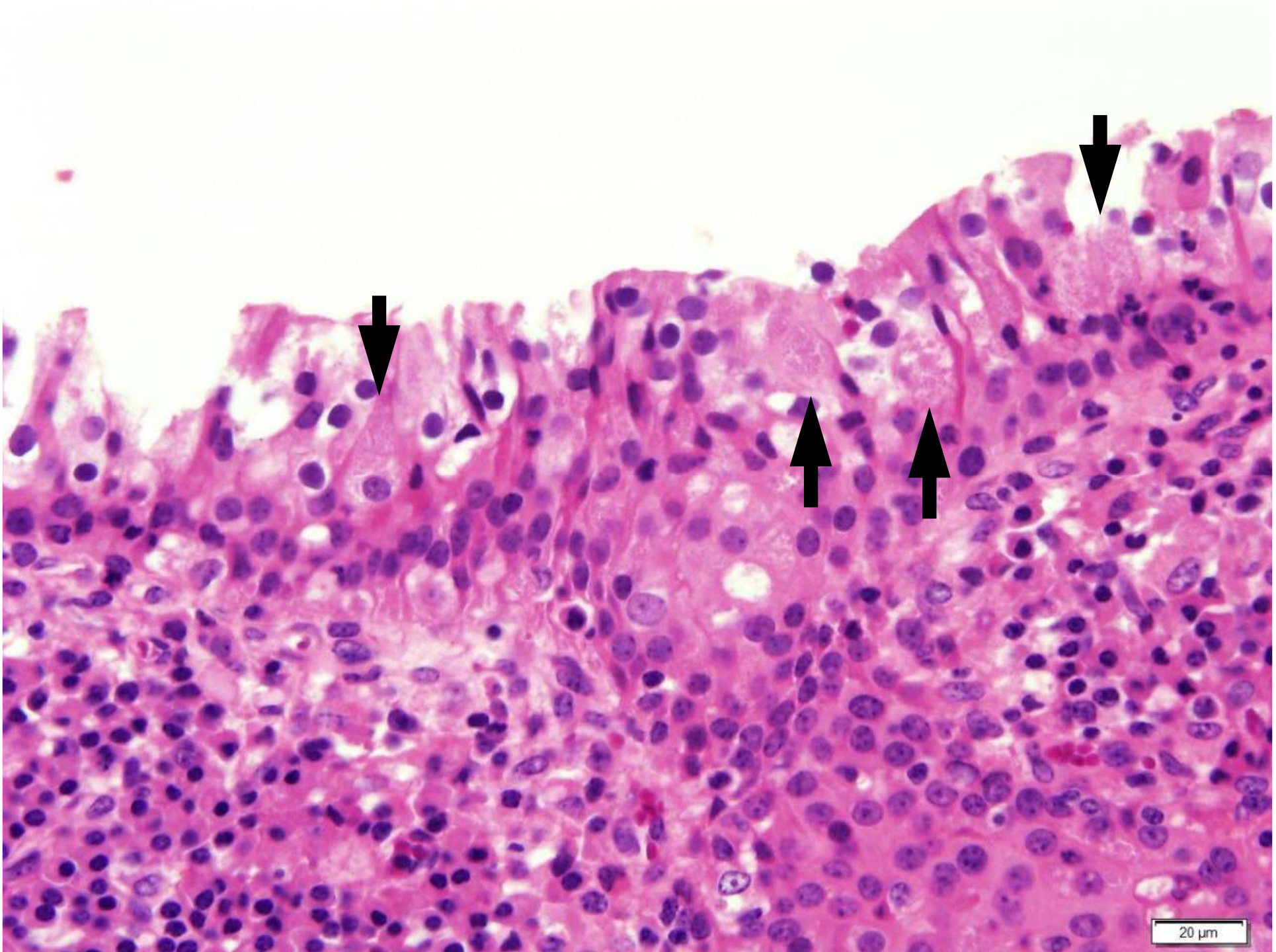
[病原検索]

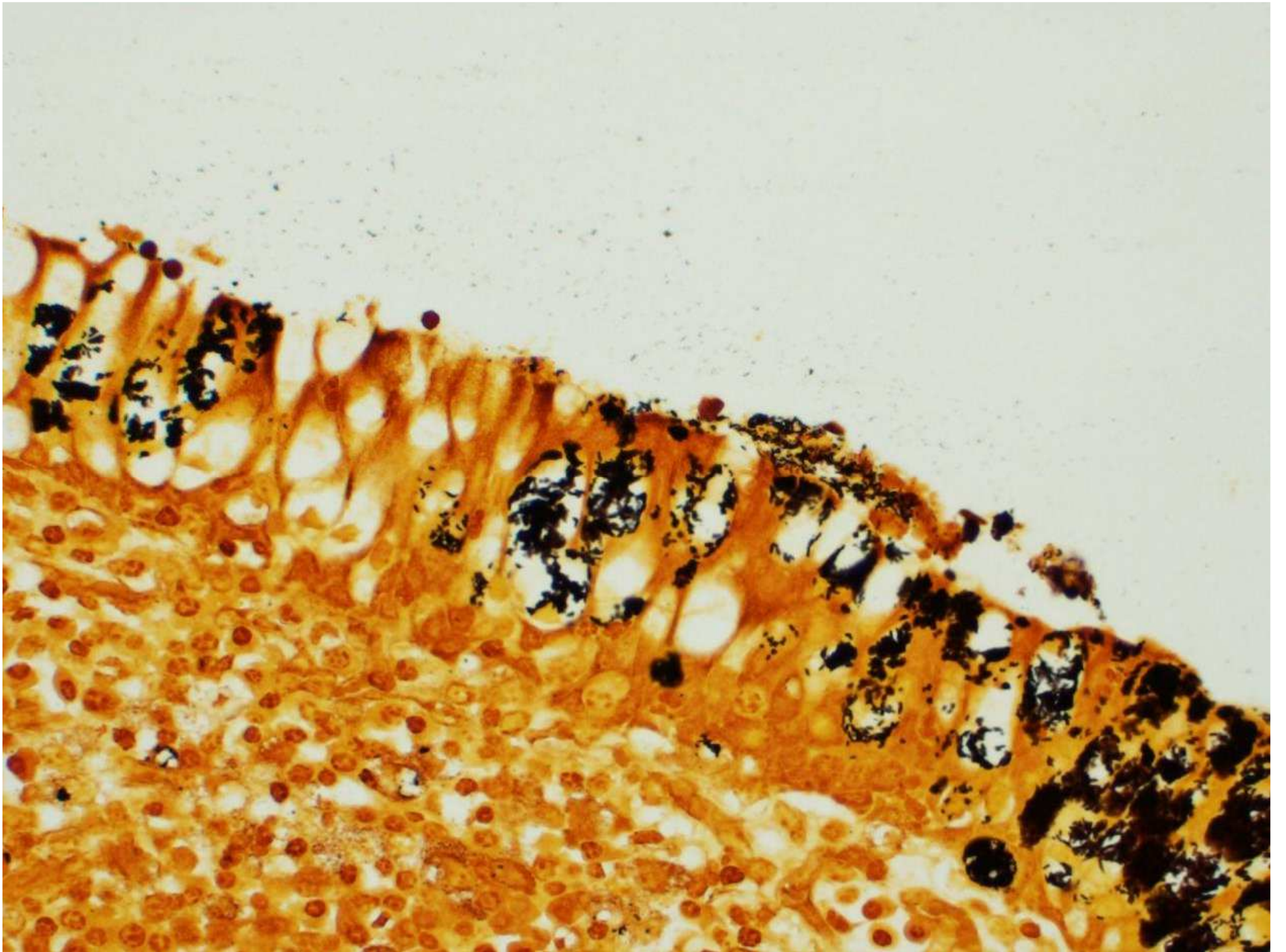
- 鼻腔スワブの好気培養でサルモネラ属菌が分離
- 分離菌株は III 61:k:1,5,7 (*S. enterica* subspecies *arizonae*)
(NVSLで実施)
- サルモネラ属菌の免疫組織化学染色では、鼻粘膜及び粘膜下組織の上皮細胞、杯細胞、マクロファージの細胞質内及び細胞外にびまん性の強陽性反応



3

500 μm





サルモネラに対する免疫組織化学染色



[提出者の診断]

鼻腔：鼻炎、増殖性、リンパ形質細胞性及び膿性肉芽腫性、びまん性、著明な、慢性。細菌を伴う。

Nasal cavity : Rhinitis, proliferative, lymphoplasmacytic and pyogranulomatous, diffuse, marked, chronic with bacteria.

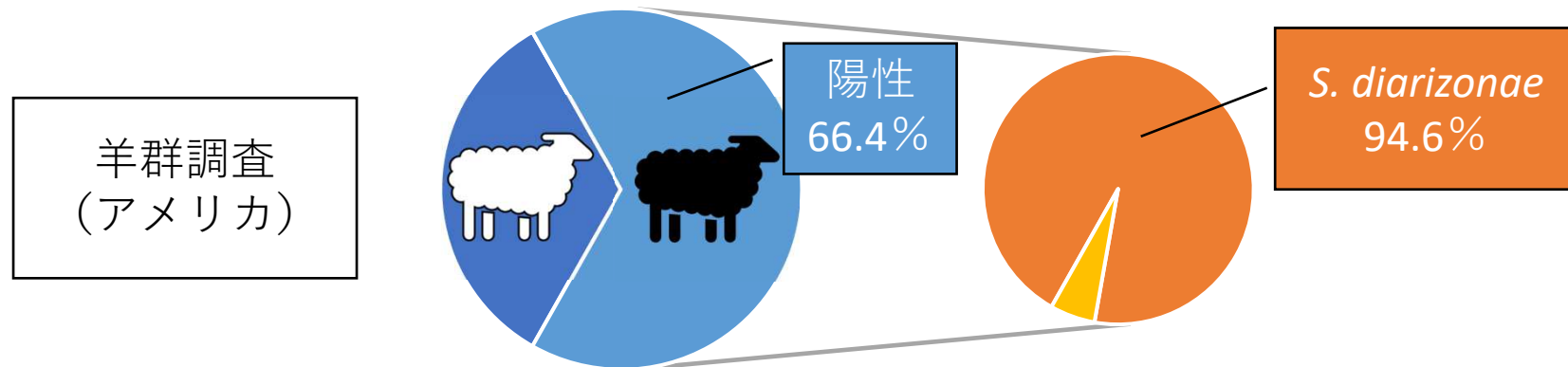
[JPCの診断]

鼻粘膜：鼻炎、増殖性、及びリンパ形質細胞性、慢性、重度。多発性の粘膜びらんと多数の細胞質内桿菌を伴う。

Nasal mucosa: Rhinitis, proliferative, and lymphoplasmacytic, chronic, severe, with multifocal mucosal erosion and numerous intracytoplasmic bacilli.

[提出者のコメント]

- 羊の慢性増殖性鼻炎は複数の国及び血統で報告
- 臨床症状及び病変形成は主に1才以上の個体で、ほとんどの症例は4才～7才
- 最初の報告は*S. enterica* spp. *arizonae* (serotype III)、その他に*S. diarizonae* (serotype IIIb: 61:k:1, 5,(7))が報告
後者は複数の国で健常な羊からも分離



- *S. diarizonae* は羊の腸と扁桃に無症状で定着しており、
流産、精巣上体精巣炎、子羊の下痢が少数報告
- 慢性増殖性鼻炎では消瘦、鼻汁排泄、顕著な口呼吸等が生じ、
死亡に繋がる場合もある
- 病変を引き起こす機序は不明。
実験的な鼻腔内接種では数か月にわたってIFN- γ が上昇、
細菌は少なくとも1年間気道に維持
⇔増殖性の病変は再現されなかった

類症鑑別

ヒツジバエ幼虫症

Enzootic nasal tumor virus -1 and -2

ウイルス性肺炎 (RS virus, ovine adenovirus, parainfluenza 3)

[JPCのコメント]

- *Salmonella diarizonae*については、脊椎骨髄炎及び卵巣炎を発症したヘビからヒトへの感染報告がある
- 現在のところ報告は無いが、慢性増殖性鼻炎を発症した羊からヒトへの感染にも注意

